

総務省消防庁の新たな試みー 西日本防災システム

2013 08 05

総務省消防庁は、東日本大震災で被災地への陸路が寸断され、消防活動に遅れが生じたことを教訓に、大規模災害時にポンプ車や救急車などを空輸するための検討に着手したそうです。今年末から来年にかけて実証実験を実施するようです。空路を活用した迅速な消防力の投入により、予想される南海トラフ巨大地震などでも、被災地での効果的な活動を促す考えのようです。

東日本大震災では、広い範囲に亘り大きな被害が出たことから、幹線道路が土砂やがれきで埋もれ、消防隊の被災地への到着が大幅に遅れました。宮城県石巻市では、津波によって陸路が寸断された陸上の孤立地域で火災が発生しましたが、現地の車両も津波の被害を受けたため、延焼範囲が大きく広がり鎮火までに10日以上かかったことも事実です。

このため同庁は、陸路での移動が難しくなった場合の対応策として、ポンプ車や救急車などを大型ヘリコプターでつり上げて空輸する手法の検討を始めたようです。被災地に入った近隣の消防部隊や緊急消防援助隊が、空輸された車両を活用することで、迅速な救助活動や火災などの規模縮小を図るんだそうです。

実証実験は12月末～来年1月をめどに行う方針で、結果を踏まえて技術面、運用面の課題を整理し、空輸の実現に向けた検証を進めるそうです。担架ベッドや救命胴衣、ガソリンなどの資機材や燃料の空輸についても検討し、災害で孤立した地域での消防体制の確立を目指す予定だそうです。

確かに緊急車両の空輸はとても良いアイデアだと思いますが、やはり安全性が気になりますね。



西日本防災システム
NISHINOHON BOHSAI SYSTEM Co., Ltd

<http://www.nbs119.co.jp/>



弊社top pageへ

